

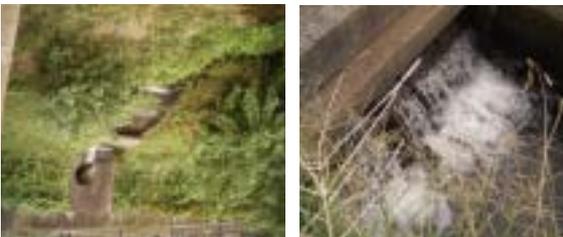
深大寺・佐須地区の里山 現地調査

～ 調布の里山・水辺再生活用事業検討会 その2 (第3回) ～

この検討会は、調布環境基本計画の「豊かな緑・水・景観を守り育てるための取組」のモデル事業を深大寺・佐須地区で実施するにあたり、公募市民と環境基本計画策定委員が集まり、学習、意見交換、考え方の整理等を行っていくワーキングの場です。

9/22 3 回目ワーキングは現地調査。君塚講師とともに 10 名の委員が野川、細田橋から佐須用水沿いに神代農場まで視察。

まず、細田橋で佐須用水が野川に流れ落ちる所に段差があり、生物の往来が出来ない状況を確認。ここでは野川のコイが入り込み小さい生物を食い荒らすことが無いので、一長一短との説明。佐須用水の途中にも「角落し」と言われる段差があり、これはなんとか石を貼った斜曲面にしたいところ。その他ところどころ、以前は田んぼとして佐須用水から水をひいていた跡が残っているのを確認。



流れに段差があることによって生物の往来ができない。

また前回の説明にあった「湧水を下水に流すのはもったいない」というお話し湧水が下水溝に落されているのを実際に見て、確かにもっと有効利用したいとの思いを強めた。

途中、佐須図書館横の空き地に建設予定の看板があり、急速に田畑が減少していくのが感じられた。水路だけの問題ではなく、こ

いった農地をどうやって残していくかが一番大変な問題と思われた。

自然広場から柏野小学校先きまで暗渠になっている佐須用水だが、柏野小前歩道に 1 箇所、生物のための明り取りのガラスがはまっている。真っ暗なところには生き物が入っていかないので、本来なら暗渠にせず全て開放型の用水路にしたいところ。水路と、それに伴う生物を大切にしたいという姿勢のシンボルともなっている。

深大寺自然広場では高速道路造成時に谷戸に残土を入れたという地形を確認。農場からの湧水が暗渠に流れこんで行くのもいかに残念な光景。

最後に神代農場内を案内していただき、湧水を使ったワサビ田やマスの養殖池、春にはカタクリの咲く斜面を見学。そこには都立農業高校として保全されてきたからこその、里山のすばらしい風景が残っていた。



ここで下水溝に落ちる



生物のための明り取り。見落とさないで。



農場内の雨水浸透マス。雨どいがなく直接、雨だれを浸透させる設計。東宮御所にも同じ方式が設置されている。

歩いて見て食べて知る、
雑木林の恵み

・ 調布そぞろ歩き・カニ山周辺
・ 調布産新米を食べる
10月29日 10時～14時頃

今回のそぞろ歩きは、深大寺自然広場周辺を歩き、崖線付近の農家がどのように水を利用してきたか等をさぐっていきます。

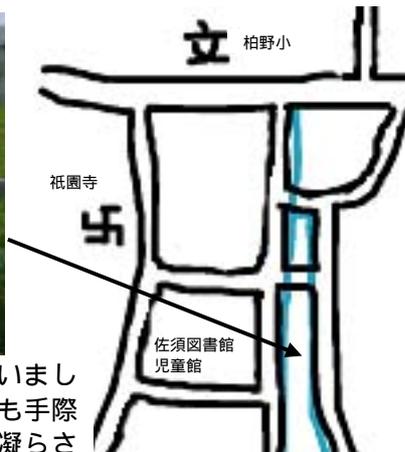
その後自然広場東樹林の保全のようすを見ながら、皆でマキ拾いをし、そのマキを使って調布の新米をいただきます。地場産の野菜がたっぷり入ったお鍋も有ります。

その他、スタジイを拾い煎って食べたり、木片を使ったキーホルダー作りをしたりと、雑木林の恵みを存分に利用して楽しいひとときを過ごしましょう。

申し込み方法など詳しくは、
10月5日の市報をご覧ください。



水のお話 田んぼの学校 番外編



がる武蔵野の台地が、上水によって田畑と屋敷林に姿を変え、村むらが開けていきました。砂川分水の水が深大寺用水として調布に引かれたのは明治4年(1871)のことです。深大寺東町から柴崎、つつじヶ丘へと流れ、野川に流入するまでの間に、いくつもの細かい水路が張り巡らされ、主に農業用水や生活用水として利用されました。現在、深大寺用水は埋められてしまいましたが、その名残をとどめる湿った場所を好む植物や

9月10日、田んぼの学校では案山子作りを行いました。34度の猛暑の中、皆さん試行錯誤しながらも手際よく作業を進められ、あっという間に創意工夫の凝らされた立派な案山子たちが立ち並びました。近くに寄られた方は、子どもたちの力作を是非ご覧ください。

掘の地形などから、用水や水路の跡をたどることができます。

さて前回は、ミミズの働きについて書きました。市内の公園などでよく見るのはフトミミズの仲間フツウミミズです。しかし全国的に「ふつう」ではなく、多摩川水系の流域周辺に多い種だそうです。多摩川が、何十万年もかけて北から南へと流れを変えていく間に水に運ばれた動植物の一例です。同様に、深大寺・佐須から野川にかけての環境や動植物を見てみると、かつての玉川上水からの分水「砂川分水(深大寺用水)」とのつながりが想像されます。



昔の、土のままの道や素掘りの用水は不便で管理も大変だったでしょうが、ミミズなどの飛べない小動物や植物にとっては、繁殖に欠かせない「水の道」であったことがうかがえます。明らかに人の手で植えられたものもありますが、用水や水路跡の生き残りたちを探してみてください。ただし虫刺されにはご用心。

(田んぼの学校 こんどう)

砂川分水とは、玉川上水完成の3年後(1657年)、飲料水や農業用水の不足を補うため、上水の水を砂川に引き込んだものです(現在の立川市砂川町)。ススキ野原が広

「本誌68号」で紹介した水鳥の正体はウズラシギかヒバリシギでした。普段は水辺の草原に隠れて水生昆虫やエビカニ類を捕食しています。本州平野部では梅雨時と秋雨の時期に見られます。

◆ ----- 里山の保全 ~ 市民のうごき 9月 ----- ◆

カニ山の会

9/9(土) 参加者8名。

北側内部のササ刈りを行った。大きめなシュロが3本残っていたのでそれも伐採。前回南側低地にキツネノカミソリが咲いていたので、開花条件をさぐるため、今年たくさん咲いていた野草園前の斜面と神代農場の雑木林を見学。高木と低く刈られた草本層のみの農場を見て、東樹林はここまでやらなくても、との感想を語り合う。



カニ山南にある、お地蔵様の後ろにはシキミの木がありました。シキミはお寺などによく植えられている木です。これも誰かが植えたものかもしれません。

環境モニター

9/2(土)

カニ山のひきずり坂入り口から南側の明るい場所と自然広場の植物調べ。短い時間でしたが木本類だけでも48種、草本類は約100種を確認し、崖線樹林らしさを感じました。

人間・樹林の会

9/17(日) 参加者7名

三角地の草刈を行いました。ヨウシュヤマゴボウが大きく育ち、実が熟しはじめています。草の勢いが旺盛なので、来年は、夏前に刈ろうという意見ができました。鎌の切れが悪く、安全のためにも鎌などの道具の手入れの研修を一度したいという要

望もありました。久しぶりに樹林地を訪れると、明るくなっていたがまだまだ暗いという感想もでて、今後の管理の参考にしていきます。また、マテバシイの広場に草が繁茂して驚いたという声もでした。



草刈りの後にはヨウシュヤマゴボウが目立って

花は少なく、アザミ、ミズヒキ、ハエドクソウ、ヨウシュヤマゴボウが、クサギとヤブランは花期もそろそろおしまいようです。

作業後は、ヤマガラさえずりが、林内に響いていたので皆でさき耳をたてました。

(安部)

アザミが一輪



保全課の窓

深大寺・佐須地区現地調査報告 (第1回)

調布市では、環境基本計画に基づき、深大寺・佐須地区に関する自然環境調査(18地点)を行っています。第1回調査結果の概要は次のとおりです。

植物は93科262種(うち注目種15種)を確認、植生管理の程度によって生育状態は大きく異なっていることが分かりました。

鳥類は7目13科23種(うち注目種3種)を確認しました。比較的まとまった樹林や水辺環境ではサギ類やカルガモが確認できました。**昆虫類**は12目93科234種(うち注目種13種)を確認しました。良好な状態に管理されている樹林ではクワガタムシ類、ミドリシジミ類など、雑木林を代表する昆虫類を確認できたほか、タケウチトゲアワフキやクワコなど、都市部では珍しい昆虫が見られました。魚類、水生昆虫類、その他の底生動物は合計17目30科34種を確認。うち注目種に該当する種はホトケドジョウ、メダカ、コノシメトンボ、モノアラガイの4種です。水質はおおむね良好で、調査した7地点中5地点でホトケドジョウが確認されました。

日ごろの観察をとおして確認されている特徴的な動植物がありましたら、環境保全課へご連絡ください。(環境保全課 三塚)

ふるさと考

夏休み、皆さんはどこかへお出かけになりましたか。私も休暇をいただいて、久しぶりに故郷を訪ねてみました。故郷といっても都内なのですが、国内組・海外組のおかげで、日帰りながら、ゆっくりと時を過ごすことができました。

生家はとくに跡形もなく、ご近所の家々もろとも巨大マンションに飲み込まれていました。しかし、近くを流れる目黒川は、当時よりもややかれいさを取り戻しているようでした。

祖父母が知っている目黒川はホタルが飛び交い、子どもらが川遊びや魚捕りに興じ、染物屋が友禅流しをしていた清流だったそうですが、やがてコンクリートに囲まれ、無秩序に工場排水や生活雑排水が流し込まれ、私が生まれ育ったころには、すでに川底にはヘドロがたまっていました。真っ黒でよどむだけの水、ガスと悪臭を放つさまは、さながら大きなドブでした。故郷の川でありながら、子ども心にも近寄りたくない場所の一つでした。

この夏の目黒川は、多少なりとも流れが生じていて、周囲も遊歩道などが整備され、人が近寄り易くなったようでした。臭いもありませんでしたが、それがちょっと寂しい(?)私です。(環境保全課 青柳)

「調布あちこち・・・」



9/22 農場見学时にゴイサギと思われる幼鳥がいました。数人でカメラを向けても逃げようすもありません。ドロ沼をつついて何かエサを探しているようす。こんなに人慣れした態度でこの先無事に成長できるのかと、少し心配になりました。

← 保全活動～市民のうごき 9月 →

ちょうふ環境市民懇談会 運営委員会

9/11(月)18:30～21:00
たづくり3F

1.自然便りの原稿締め切り
印刷の関係で毎月20日頃とする。

2.若葉町樹林地の活動

保全課と緑と公園課で意見調整をするべきである。雑木林塾開催時に、保全課から講師派遣をお願いしたい。

3.10/29の懇談会イベント

50人ほどを想定し、そぞろ歩き・体験活動・新米をたべる・などに関し、タイムスケジュール等を決めた。10/5の広報で一般募集する他、各活動グループでもスタッフとしての参加者数を把握する。

4.「環境学習支援事業のルールづくりについて」の意見・要望について

保全課から出された案に関し、この場で簡単に決めるようなことではないので、下記5と共に別途日程をとって話し合う。

5.環境市民懇談会、今後の進め方

・市民懇談会は、自然保全の活動主体が横の連携を取り合いながら、協働の役割を担う組織となっていくことがよいと考えるが、協同の取り組みは実現できていない。

・市民懇談会は事業を企画運営する予算が無く、動きが取れない。行政から受託(公園管理、運営会議の運営等)されるには受け皿となる組織が必要だが、現在の運営会議がそれを望んでいるかの確認をする必要がある。



9/15 久しぶりにヘビヤマを覗きました。北側のカラムシが群生していた場所には「からむし」というタイトルの説明看板

が立てられていたのです。誰が立ててくださったのでしょうか?

郷土博物館横の樹木が沢山伐採されたところには実生のユリノキやアオギリがたくましく育ち、背丈ほどになっています。これもいつまでの命?



市民活動カレンダー & おしらせ

すべての会で新メンバーを随時 募集中!

このニュースレターは、「ちょうふ環境市民懇談会」の 市民委員が制作しています

調布市環境モニター

10/7(土) 10:00~12:00

集合場所: 調布市多摩川市民広場
南土手ベンチ

内容: ワンド周辺の植物調べと図鑑用
写真撮影 午後は有志で図鑑製作
について話し合いをします。

持ち物: 筆記用具・植物図鑑・双眼鏡・
カメラ・飲み物。(長袖・長ズボンで)

カニ山の会

10/14(土) 10:00~12:00

集合場所: 深大寺自然広場野草園横

内容: 林内整理作業・フローラ調査・
10/29 イベントの準備など。

*初めてののかたの参加も歓迎します。
作業できる服装(必ず長袖・長ズボン)
で直接集合場所へおいで下さい。

若葉町3丁3緑地-保全活動

10/8(日) 10:00~12:00

集合場所: 人間地域福祉センター

内容: 参加者へのガイダンス 周辺&
現地の昔と現在樹林地の整備

第2日曜を活動日としています。

問: 緑と公園課 042-481-7083

人間・樹林の会

10/15(日) 9:30~12:00

集合場所: 人間地域センター

内容: 方形柵調査・笹刈り

*雑木林塾の人も参加して「雑木林ひ
るば」の笹刈りをします。

布田崖線緑地-凸凹山公園 WS

10/22(日) 10:00~12:00

雨天中止/集合: 現地(若宮八幡向い)

内容: スロープの整備、草刈

作業できる服装でお越し下さい。

~雑木林体験イベント~

とき 10/29(日)

時間 10:00~14:00

集合 深大寺自然広場野草園横

*持ち物: 水筒・茶碗・おわん・
コップ・おはし

*募集人数30人*参加費: 5000円

*参加申し込み先: 環境保全課

電話: 042-481-7086

調布の里山の保全活動をしている
メンバー企画の体験イベントです。
そぞろ歩きの後、かまどで炊く調布
産新米と調布産野菜入り鍋をいた
だきます。マキ拾い・火起しなども
体験。スダジイ入りナンなど、おい
しい体験も満載です。

主催: ちょうふ環境市民懇談会

~植樹祭とイモ掘り~

10/15(日) 10:00~12:00

場所: 深大寺五差路脇の都市森の丘

受付: 先着順 参加費: 無料

コナラ・クヌギ等の植樹をしたあ
とサツマイモ掘りもします。おいし
いトン汁も出ますよ。(発信: 鍛冶)

主催: 22世紀の森・神代

環境モニター開花日

ヒガンバナ

開花(発見日)

06/9/9(カニ

山)

06/9/14(染

地付近)

ツルボ

開花(発見日) 06/9/16 (多摩
川土手)



会議の日程

ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

10/10(火) 18:30~20:30

場所: たづくり301会議室

内容: 10/29 イベント打合せ/運営
委員の役割について/ほか。傍聴可。
資料の準備がありますので事前にご
連絡下さい。

環境保全課: 042-481-7086

雑木林連絡会

10/16(月) 18:30~19:30

場所: たづくり301会議室

内容: 第3回。市内で雑木林の管理
作業をしているグループの情報交
換・相談の場です。

【編集後記】

今年の夏もセミは6階のマンショ
ンベランダでうるさいほど鳴いたが、
蝶やトンボには全くお目にかからな
い。ところが深大寺五差路脇でほん
の少し花が咲いている所には、いつ
行っても何種類もの蝶が舞っている。

近頃は南方の昆虫が東京でも見ら
れるというので、気を付けて観察す
るのだが種類はわからず、ヒョウモ
ンチョウの仲間だという推測が精一
杯。やはり自然に親しむ第1歩は、
相手を見分けること?かな。

(編集当番: 鍛冶直美)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境
を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復し
ていくために設立されました。2001年から保全
活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言
などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境保全課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

~調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます~

市公式HP [くらしのガイド](#) [環境](#) [環境学習](#) [自然だより](#)